

# 平成23年当院初診妊婦の 妊娠経過の内訳

高知ファミリークリニック

- 1) 高知大学医学部産科婦人科  
福永寿則、池上信夫1)

対象：平成23年1月1日～平成23年12月  
31日に高知ファミリークリニック初診  
の妊婦 982名

中絶希望	36	3.7 %
当院予約枠超で他院へ	24	2.4 %
他院管理中の受診のみ	16	1.6 %
来院中断・異常なく他院へ	94	9.6 %
当院管理	812	82.7 %
総数	982	

：当院では人工妊娠中絶は行っていない。

## 当院管理 812例 について

流産	82	10.1 %
リスクあり初期に転院（紹介状なし）	17	2.1 %
紹介（～15週）	28	3.4 %
紹介・搬送（16週～）	77	9.5 %
里帰り分娩	23	2.8 %
当院分娩	612	75.4 %
（当院分娩中逆紹介）	（27）	
総数	812	

： 当院への里帰りは 95例

## リスクあり初期に転院(紹介状なし) 17例 の理由

産婦人科 6	円錐切除術後	3
	早産既往2回	1
	前児 4 5 5 4 g	1
	子宮筋腫術後	1
その他 11	肥満 1)	4
	高血圧症	1
	精神疾患 2)	2
	脳腫瘍手術後	1
	甲状腺疾患	2
	ベーチェット病	1
合計		17

1) 1例喘息合併 2) うつ病、混合性不安抑うつ

⇒ 通院中の病院、あるいは総合病院を勧める

## 紹介(～15週) 28例の理由

産婦人科 14	切迫早産の既往	2
	双胎	2
	妊娠糖尿病	2
	卵巣過剰刺激症候群	1
	重症妊娠悪阻	1
	子宮外妊娠疑い	2
	子宮頸部細胞診異常	2
	子宮筋腫	1
	卵巣嚢腫	1
その他 14	肥満	3
	高血圧症	4
	精神疾患 1)	3
	甲状腺疾患	2
	喘息	2
合計		28

- 1) 精神科病院通院中  
うつ(妊娠後発症)  
緊張性自律神経失調

## 紹介・搬送(16週～)77例の理由

母体 異常 57	チェックPROM陽性	4
	切迫流産(19週、21週)	2
	切迫早産	43
	妊娠高血圧症	5
	妊娠糖尿病・肥満	1
	前置胎盤	1
	絨毛羊膜炎(破水後の発熱)	1
	IUGR	2
胎児 異常 11	羊水過少症(胎児奇形)	1
	単一臍帯動脈	2
	胎児心異常疑い	2
	胎児脳室拡大	2
	胎児多のう胞腎疑い	2

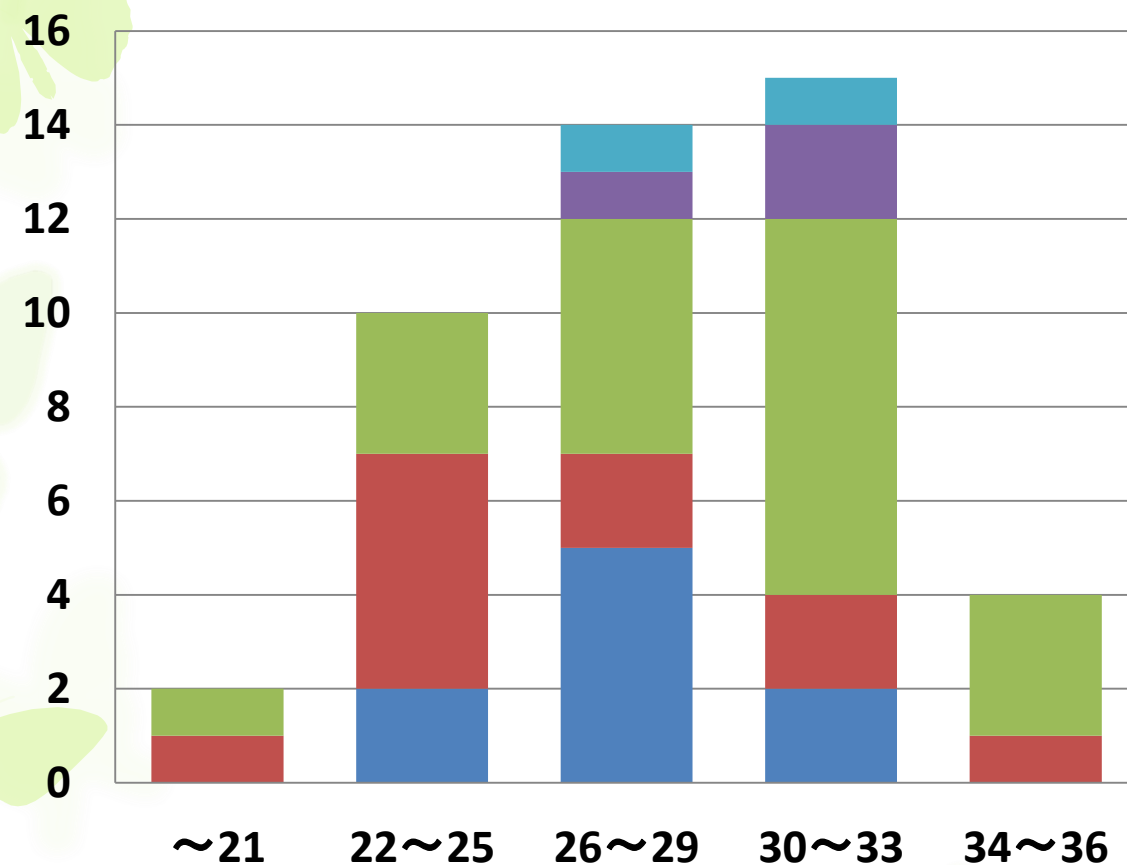
その他 9	Rh(-)、自己血貯血希望	1
	血症板減少・既往帝切	1
	関節リウマチ合併	1
	尿管結石	1
	発作性頻拍	1
	めまい・耳鳴り	1
	甲状腺機能亢進症	1
	気管支喘息	2
	合計	77

## チェックPROM陽性 4例 について

No.	紹介週数	搬送後経過				搬送時状況		
		紹介先	分娩週数	児体重(g)	搬送後経過	子宮口	子宮頸管長(mm)	当院経過
1	23	高知医療センター	36w 4d	3164	チェックPROM 陰性化 21trisomy	外子宮口 1指挿入 内子宮口 閉鎖	30.4	G2P1。妊娠10週子宮頸管ポリープ除去。他特記なし。
2	29	高知医療センター	38	3088	チェックPROM 陰性 母子共良好	閉鎖	27.9	G2P2。第2子切迫早産入院。今回妊娠25週2日子宮頸管長 21mmで外来管理中。
3	30w 5d	国立高知病院	36w 6d	2094	Ap 8/9	閉鎖	34.5	G1P1。妊娠初期から子宮頸管ポリープあり。27週3日出血(里帰り先)ポリープ除去。
4	33w 0d	高知医療センター	33w 1d	2064	搬送翌日 誘発	閉鎖	25.7	G0P0。6日前から嘔吐下痢。前日から水様帯下。

# 切迫流早産 45例 の週数別紹介・搬送先

(人)



- その他
- 高知赤十字病院
- 国立高知病院
- 大学病院
- 高知医療センター

紹介・搬送時妊娠週数



# 切迫流早産 45例の、紹介時子宮口開大度と分娩週数

紹介時 子宮口	分娩週数						計
	~26	27~29	30~33	34~35	36	37~	
閉鎖					4	14	18
外子宮口 1 指挿入 内子宮口閉鎖					2	8	10
1 c m		1		1	1	5	8
2 c m			2	1		3	6
3 c m ~				1	1	1	3
計	0	1	2	3	8	31	45

対象中、当院のみで切迫早産管理を行った症例もある。当院で早産となった症例は 3 例

No.	分娩週数	児体重 (g)	
1	27w3d	802	羊水過少で大学紹介。 致死性奇形で当院で管理
2	36w1d	2398	母子ともに良好
3	36w6d	2426	母子ともに良好

当院分娩、あるいは切迫のため紹介した症例の  
合計 **661例** の早産率

分娩週数	～26	27～29	30～33	34～35	36	37～	計
数	0	2	3	3	12	641	661
%	0.0 %	0.3 %	0.5 %	0.5 %	1.8 %	97.0 %	
早産合計	<b>20例 (3.0%)</b>						

# 結果

1. 平成23年当院初診妊婦の内、当院妊娠管理の812例中、切迫流・早産で紹介・搬送した症例は49例（6.0%）であり、その内4例はチェックPROM陽性の症例であった。
2. チェックPROM陽性の4例中2例に子宮頸管ポリープが認められ、1例は切迫早産治療中であり、1例は6日前から嘔吐下痢がみられていた。
3. 早産は661例中20例（3.3%）であった。30週未満の早産は2例であり、その内の1例は胎児の致死性奇形の症例であった。
4. 35週以下で早産となった症例は、搬送時に子宮口が1cm以上開大していた。

# 考察

1. 子宮頸管ポリープは前期破水のリスク因子であり、また、前期破水予防のためには、細菌性膣症の管理が重要。
2. 早産予防のためには、子宮口開大前の対応が重要であり、子宮頸管長の測定が必要。
3. 子宮頸管長の測定時期は、妊娠18週～29週の間は、妊婦健診毎の測定が望ましいと思われる。